

農業景況調査（令和3年1月）

～農業の景況及び新型コロナウイルス感染症拡大 による影響について～

～目次～

I .農業の景況について	P 3～ 7
II .今後の経営方針について.....	P 8～10
III .新型コロナウイルス感染症拡大による影響.....	P11～15
IV . コロナ禍により取引量が増えた販売先について	P16～19

○調査概要

- 調査時期: 令和3年1月
- 調査方法: 往復はがきによる郵送アンケート調査
- 調査対象: スーパーL資金又は農業改良資金のご融資先のうち18,060先
- 有効回答数: 5,786先(回収率32.0%)

(内訳)

稲作(北海道): 616、稲作(都府県): 1,377、畑作: 568、露地野菜: 573
施設野菜: 474、茶: 114、果樹: 324、施設花き: 152、きのこ: 67、
酪農(北海道): 218、酪農(都府県): 208、肉用牛: 390、養豚: 199、
採卵鶏: 96、ブロイラー: 79、その他: 331

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部(担当: 高田、米山) TEL: 03-3270-5585
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

I. 農業の景況について(景況DI、収支DI)

- ・令和2年通年の農業景況DI(▲24.9)は前年実績(6.0)から30.9ポイント低下し、マイナス値に転じた。
- ・令和3年通年の見通しは更に7.5ポイント低下し、▲32.4とマイナス幅が拡大する見通しとなった。
- ・収支DIは養豚、ブロイラー、きのこを除くすべての業種でマイナス値となり、特に、茶(▲76.3)と肉用牛(▲48.4)は大幅なマイナス値となっている。一方、養豚は大きく上昇(▲7.8→47.0)し、プラス値に転じた。

1. 景況DI

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	今回調査	
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	2年	3年
												実績	見通し
農業全体	▲17.4	▲25.2	▲7.9	13.2	▲1.4	▲33.7	16.8	20.0	21.2	▲11.1	6.0	▲24.9	▲32.4
稲作(北海道)	▲29.0	▲36.9	43.5	43.9	▲4.2	▲67.2	20.1	▲4.9	39.7	▲51.8	26.5	▲3.6	▲61.6
稲作(都府県)	▲11.7	▲55.5	13.1	36.2	▲10.2	▲71.0	▲3.8	23.6	10.3	▲10.7	11.4	▲33.4	▲43.8
畑作	▲14.5	▲32.2	▲19.1	1.6	▲27.6	▲5.3	35.2	▲17.6	34.8	▲22.7	31.6	▲32.3	▲34.1
露地野菜	▲15.4	▲2.0	▲14.0	6.7	15.1	▲15.7	14.3	14.7	7.5	▲3.4	▲9.3	▲32.8	▲35.2
施設野菜	▲23.8	▲6.9	▲15.7	19.9	15.6	▲8.4	20.3	26.3	15.0	▲1.4	▲22.4	▲28.1	▲24.3
茶	▲54.2	▲32.1	▲47.3	▲12.8	▲44.8	▲55.0	▲53.1	11.1	26.5	▲14.5	▲53.1	▲78.0	▲47.4
果樹	▲34.1	▲0.9	▲11.7	16.0	6.3	▲12.7	11.5	25.6	21.8	20.6	7.5	▲16.8	▲21.8
施設花き	▲29.7	▲20.5	▲38.8	▲8.0	▲2.8	▲34.4	▲5.9	11.8	▲10.6	▲13.7	▲20.2	▲40.2	▲49.4
きのこ	▲20.4	▲51.8	▲47.1	▲19.6	4.7	▲20.7	15.2	1.1	▲2.5	▲21.0	▲23.2	3.0	▲13.4
酪農(北海道)	13.2	▲37.8	▲26.9	▲2.2	▲9.4	▲4.1	55.9	57.6	44.8	25.0	30.3	▲19.3	▲19.3
酪農(都府県)	21.8	0.0	▲24.2	0.0	▲23.8	▲30.9	29.3	52.2	12.6	2.5	8.4	▲16.4	▲3.4
肉用牛	▲20.7	▲7.4	▲47.4	8.3	20.5	▲1.2	48.5	50.3	17.5	4.7	▲0.2	▲43.9	▲12.4
養豚	▲52.4	15.5	▲6.2	▲38.1	43.6	67.5	48.8	26.2	59.4	▲27.2	▲4.1	44.3	▲2.0
採卵鶏	▲18.1	14.1	8.4	▲40.6	43.9	28.6	71.0	40.8	32.7	▲61.2	▲38.9	▲43.8	▲29.1
ブロイラー		▲20.0	▲6.3	▲1.3	▲22.4	10.4	51.9	27.4	55.3	15.9	14.7	6.4	▲8.9

※景況DIは農業経営が「良くなった・良くなる」とする構成比から「悪くなった・悪くなる」とする構成比を差し引いたもの

2. 収支DI

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	今回調査	
												2年	
農業全体	▲21.9	▲26.3	▲7.2	12.5	▲7.0	▲39.7	14.2	16.7	14.7	▲20.1	▲1.5	▲27.6	
稲作(北海道)	▲45.7	▲40.8	54.7	44.7	▲14.4	▲72.4	21.3	▲13.7	43.0	▲63.3	17.9	▲1.8	
稲作(都府県)	▲16.9	▲61.1	14.0	37.8	▲22.0	▲76.7	▲6.5	23.8	2.2	▲18.8	4.5	▲38.5	
畑作	▲16.7	▲32.3	▲21.4	▲1.4	▲35.8	▲13.8	33.9	▲24.7	28.1	▲27.5	29.0	▲37.4	
露地野菜	▲13.9	0.5	▲18.1	0.7	8.9	▲23.6	5.7	13.1	▲0.9	▲14.8	▲18.4	▲36.9	
施設野菜	▲25.2	▲9.5	▲18.2	16.7	9.3	▲19.5	15.3	20.3	5.6	▲11.8	▲27.2	▲29.2	
茶	▲76.4	▲26.3	▲44.9	▲11.9	▲43.8	▲59.0	▲52.4	8.1	25.8	▲16.1	▲54.0	▲76.3	
果樹	▲45.7	1.4	▲12.2	14.2	0.9	▲20.3	6.3	19.3	12.0	7.4	▲4.9	▲25.3	
施設花き	▲36.5	▲20.2	▲38.8	▲9.7	▲8.5	▲39.2	▲8.1	9.1	▲24.6	▲22.0	▲22.3	▲38.2	
きのこ	▲34.4	▲50.0	▲46.5	▲13.7	7.0	▲17.1	11.4	▲1.0	▲3.8	▲24.7	▲30.5	4.4	
酪農(北海道)	33.2	▲44.0	▲25.9	▲3.4	▲10.5	▲12.6	55.5	57.0	36.8	7.4	17.6	▲24.3	
酪農(都府県)	39.5	▲0.8	▲27.7	▲2.6	▲25.4	▲34.3	25.4	48.4	1.7	▲3.3	▲3.6	▲14.5	
肉用牛	▲31.4	▲5.7	▲49.9	9.9	20.2	▲7.6	50.8	48.6	7.0	▲4.1	▲7.3	▲48.4	
養豚	▲70.4	21.3	▲4.2	▲38.1	44.9	69.9	50.2	19.1	57.9	▲34.9	▲7.8	47.0	
採卵鶏	▲28.2	29.5	14.3	▲45.6	56.7	31.3	63.0	44.8	31.9	▲62.8	▲46.0	▲40.6	
ブロイラー		▲5.5	▲10.9	1.3	▲22.4	6.0	42.3	29.1	55.3	4.3	5.4	8.9	

※収支DIは収支実績が「良くなった」とする構成比から「悪くなった」とする構成比を差し引いたもの

I. 農業の景況について(資金繰りDI、販売単価DI)

- ・資金繰りDI(0.4→▲16.3)は前年から16.7ポイント低下。茶(▲48.3)や施設花き(▲32.9)などで大幅なマイナス値となっている。他方、養豚はプラス幅拡大(2.3→37.7)、ブロイラーはプラス値維持(17.4→5.0)となった。
- ・販売単価DIは前年からマイナス幅が拡大(▲6.9→▲42.2)。業種別では稲作(都府県13.4→▲64.9)、酪農(北海道:33.0→▲37.8、都府県:34.2→▲23.7)がマイナス値に転じた。

3. 資金繰りDI

今回調査

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年
農業全体	▲14.6	▲14.7	▲3.8	9.8	▲0.9	▲29.2	7.6	15.5	15.5	▲4.7	0.4	▲16.3
稲作(北海道)	▲20.2	▲18.2	34.5	31.8	▲0.7	▲52.4	8.2	▲2.5	23.8	▲30.4	7.9	▲1.5
稲作(都府県)	▲10.2	▲38.1	10.0	29.2	▲6.7	▲59.2	▲10.7	13.5	7.3	▲5.9	4.9	▲22.0
畑作	▲5.2	▲12.0	▲9.7	2.4	▲17.0	▲10.4	19.9	▲3.3	23.3	▲5.3	14.7	▲15.4
露地野菜	▲12.4	2.0	▲13.2	2.7	7.2	▲14.2	2.3	14.2	2.7	▲6.4	▲13.5	▲27.6
施設野菜	▲25.2	▲4.2	▲6.3	12.7	8.1	▲10.6	16.0	19.8	11.5	0.8	▲19.3	▲25.2
茶	▲57.5	▲28.9	▲33.0	▲16.4	▲32.5	▲43.7	▲41.3	4.3	20.2	▲8.0	▲40.5	▲48.3
果樹	▲32.4	▲6.6	▲8.7	7.2	1.4	▲14.8	1.4	14.7	8.6	8.9	2.0	▲11.8
施設花き	▲31.2	▲19.2	▲27.4	▲14.7	▲9.8	▲34.4	▲6.8	7.3	▲5.9	▲6.9	▲15.2	▲32.9
きのこ	▲22.3	▲37.3	▲39.6	▲23.5	0.0	▲29.3	10.1	1.0	7.5	▲24.7	▲29.0	▲6.0
酪農(北海道)	20.1	▲18.9	▲15.1	▲3.1	▲5.0	▲6.3	39.2	45.7	36.3	21.1	24.9	▲12.0
酪農(都府県)	28.3	3.5	▲17.8	1.8	▲14.4	▲26.2	26.5	42.1	16.4	5.4	1.6	▲6.7
肉用牛	▲19.5	▲2.8	▲26.7	8.1	9.7	▲6.1	27.8	34.6	16.9	8.7	0.7	▲25.6
養豚	▲61.1	16.7	▲4.2	▲26.8	37.1	59.3	45.0	32.4	55.6	▲7.1	2.3	37.7
採卵鶏	▲16.9	18.1	15.6	▲24.4	39.0	26.8	56.0	44.8	31.1	▲30.2	▲28.6	▲32.3
ブロイラー		3.6	▲4.7	18.4	▲16.4	3.0	38.5	29.1	50.0	27.6	17.4	5.0

※資金繰りDIは資金繰りが「楽になった」とする構成比から「厳しくなった(苦しくなった)」とする構成比を差し引いたもの

4. 販売単価DI

今回調査

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年
農業全体	-	▲41.3	▲12.7	4.5	▲11.1	▲40.0	13.1	26.1	24.3	2.1	▲6.9	▲42.2
稲作(北海道)	-	▲84.0	32.9	40.4	▲51.9	▲88.6	10.1	19.9	54.4	▲5.9	▲2.4	▲48.3
稲作(都府県)	-	▲85.8	25.2	43.3	▲58.7	▲88.2	7.0	33.4	36.0	16.9	13.4	▲64.9
畑作	-	▲40.4	▲34.4	▲29.7	▲36.2	▲30.5	▲15.4	▲3.5	▲2.1	▲1.9	▲8.6	▲57.5
露地野菜	-	9.8	▲32.6	▲19.6	17.0	▲33.5	▲10.0	16.5	▲7.8	0.8	▲43.1	▲42.2
施設野菜	-	▲14.3	▲27.3	0.9	▲0.4	▲32.8	▲0.6	26.0	8.7	▲11.6	▲31.2	▲34.4
茶	-	▲36.6	▲43.0	▲27.9	▲62.1	▲64.0	▲59.4	▲1.3	18.1	▲41.1	▲63.5	▲78.0
果樹	-	20.1	▲15.1	1.9	▲1.4	▲25.4	10.9	34.9	28.0	15.0	15.7	3.1
施設花き	-	▲37.3	▲52.0	▲27.0	▲21.1	▲47.0	▲15.4	7.3	▲28.6	▲23.3	▲25.3	▲48.0
きのこ	-	▲69.9	▲53.9	▲42.2	1.2	▲22.0	▲6.4	▲18.2	▲11.3	▲39.6	▲46.4	▲4.5
酪農(北海道)	-	▲66.7	▲22.0	37.4	36.0	59.3	85.9	79.3	67.8	47.6	33.0	▲37.8
酪農(都府県)	-	▲5.9	▲24.0	▲2.1	51.7	23.0	61.7	50.7	14.4	17.6	34.2	▲23.7
肉用牛	-	▲33.6	▲65.4	▲4.9	59.0	46.4	85.8	76.4	17.1	20.4	▲21.5	▲62.6
養豚	-	11.2	▲22.9	▲71.5	70.1	84.1	26.9	▲15.1	63.6	▲55.0	▲24.5	52.8
採卵鶏	-	38.9	▲11.7	▲48.8	82.3	53.6	74.0	▲12.0	1.7	▲66.7	▲53.2	▲57.5
ブロイラー		▲12.7	3.1	▲47.4	▲22.4	10.4	28.8	▲9.7	37.5	▲11.6	▲28.3	5.1

※販売単価DIは生産物の販売価格が「上昇した」とする構成比から「下落した」とする構成比を差し引いたもの

I. 農業の景況について(生産コストDI、雇用状況DI)

- ・生産コストDI(▲36.2)は全業種で引き続きマイナス値となった。
- ・雇用状況DI(▲34.9→▲32.0)は前年から2.9ポイント上昇した。

5. 生産コストDI

今回調査

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年
農業全体	-	▲ 43.6	▲ 48.6	▲ 50.7	▲ 62.9	▲ 66.3	▲ 44.7	▲ 19.1	▲ 25.2	▲ 37.1	▲ 38.8	▲ 36.2
稲作(北海道)	-	▲ 47.8	▲ 53.5	▲ 49.7	▲ 63.0	▲ 69.0	▲ 44.1	▲ 24.2	▲ 18.8	▲ 36.9	▲ 40.4	▲ 33.7
稲作(都府県)	-	▲ 38.6	▲ 40.7	▲ 38.3	▲ 43.6	▲ 53.2	▲ 36.5	▲ 11.5	▲ 11.2	▲ 18.2	▲ 19.3	▲ 30.8
畑作	-	▲ 55.2	▲ 62.3	▲ 55.8	▲ 70.4	▲ 78.2	▲ 63.7	▲ 32.6	▲ 28.4	▲ 38.5	▲ 45.6	▲ 41.5
露地野菜	-	▲ 54.4	▲ 55.3	▲ 46.9	▲ 65.1	▲ 67.5	▲ 56.8	▲ 28.9	▲ 40.0	▲ 46.3	▲ 53.1	▲ 44.7
施設野菜	-	▲ 55.9	▲ 52.4	▲ 52.4	▲ 64.5	▲ 63.4	▲ 41.0	▲ 26.5	▲ 39.9	▲ 49.0	▲ 57.6	▲ 46.0
茶	-	▲ 38.1	▲ 53.1	▲ 48.4	▲ 68.5	▲ 72.5	▲ 30.1	▲ 11.1	▲ 32.2	▲ 46.7	▲ 51.6	▲ 25.4
果樹	-	▲ 46.0	▲ 38.1	▲ 44.8	▲ 55.8	▲ 67.0	▲ 48.4	▲ 31.3	▲ 37.3	▲ 39.0	▲ 48.1	▲ 40.2
施設花き	-	▲ 34.9	▲ 48.9	▲ 53.3	▲ 70.7	▲ 72.8	▲ 33.5	▲ 21.9	▲ 48.6	▲ 53.5	▲ 55.7	▲ 40.2
きのこ	-	▲ 38.6	▲ 43.1	▲ 40.6	▲ 64.0	▲ 74.4	▲ 43.0	▲ 22.4	▲ 28.8	▲ 59.2	▲ 56.6	▲ 44.8
酪農(北海道)	-	▲ 51.1	▲ 59.0	▲ 68.8	▲ 81.9	▲ 80.4	▲ 46.4	▲ 4.9	▲ 35.2	▲ 48.2	▲ 37.1	▲ 45.4
酪農(都府県)	-	▲ 34.0	▲ 53.9	▲ 67.5	▲ 83.5	▲ 83.6	▲ 46.6	▲ 0.7	▲ 32.9	▲ 40.4	▲ 46.6	▲ 38.5
肉用牛	-	▲ 42.3	▲ 38.0	▲ 65.7	▲ 83.1	▲ 81.9	▲ 63.1	▲ 37.3	▲ 41.3	▲ 46.7	▲ 37.4	▲ 30.9
養豚	-	▲ 21.0	▲ 48.7	▲ 65.9	▲ 69.6	▲ 59.8	▲ 17.7	16.9	12.1	▲ 37.0	▲ 24.7	▲ 19.1
採卵鶏	-	▲ 23.5	▲ 31.2	▲ 61.9	▲ 79.9	▲ 78.6	▲ 32.0	11.2	▲ 12.0	▲ 49.6	▲ 46.9	▲ 41.7
ブロイラー	-	▲ 54.5	▲ 42.2	▲ 42.1	▲ 76.1	▲ 59.7	▲ 44.2	▲ 4.8	▲ 16.1	▲ 23.2	▲ 28.0	▲ 20.3

※生産コストDIは生産の費用(コスト)が「下がった」とする構成比から「上がった(コスト増)」とする構成比を差し引いたもの

6. 雇用状況DI

今回調査

	平成21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年
農業全体	-	-	-	-	-	-	▲ 26.3	▲ 33.6	▲ 36.8	▲ 34.7	▲ 34.9	▲ 32.0
稲作(北海道)	-	-	-	-	-	-	▲ 26.7	▲ 35.6	▲ 39.0	▲ 41.2	▲ 36.9	▲ 38.4
稲作(都府県)	-	-	-	-	-	-	▲ 18.8	▲ 27.3	▲ 27.8	▲ 27.6	▲ 29.5	▲ 28.4
畑作	-	-	-	-	-	-	▲ 33.6	▲ 40.8	▲ 45.0	▲ 40.9	▲ 42.7	▲ 37.5
露地野菜	-	-	-	-	-	-	▲ 34.9	▲ 41.5	▲ 43.4	▲ 36.7	▲ 38.2	▲ 36.2
施設野菜	-	-	-	-	-	-	▲ 24.1	▲ 30.8	▲ 33.0	▲ 30.9	▲ 30.1	▲ 24.9
茶	-	-	-	-	-	-	▲ 26.6	▲ 30.8	▲ 37.7	▲ 40.7	▲ 39.5	▲ 29.7
果樹	-	-	-	-	-	-	▲ 25.6	▲ 32.0	▲ 36.8	▲ 36.9	▲ 36.0	▲ 31.6
施設花き	-	-	-	-	-	-	▲ 26.8	▲ 31.6	▲ 34.4	▲ 31.8	▲ 29.9	▲ 26.7
きのこ	-	-	-	-	-	-	▲ 26.6	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 42.0	▲ 42.0	▲ 34.9
酪農(北海道)	-	-	-	-	-	-	▲ 40.4	▲ 45.0	▲ 52.5	▲ 44.1	▲ 38.7	▲ 31.9
酪農(都府県)	-	-	-	-	-	-	▲ 25.8	▲ 28.0	▲ 27.6	▲ 26.3	▲ 35.3	▲ 27.5
肉用牛	-	-	-	-	-	-	▲ 24.7	▲ 28.7	▲ 34.3	▲ 32.4	▲ 32.9	▲ 33.2
養豚	-	-	-	-	-	-	▲ 35.6	▲ 44.5	▲ 44.3	▲ 32.7	▲ 29.8	▲ 26.3
採卵鶏	-	-	-	-	-	-	▲ 31.0	▲ 43.2	▲ 47.4	▲ 41.1	▲ 38.9	▲ 33.3
ブロイラー	-	-	-	-	-	-	▲ 15.4	▲ 21.4	▲ 36.4	▲ 25.0	▲ 37.4	▲ 21.8

※雇用状況DIは雇用状況の実績が「過剰である」とする構成比から「不足である」とする構成比を差し引いたもの

I. 農業の景況について(設備投資予定ありの比率、設備投資額)

- ・設備投資予定ありの比率(46.1%)は、前年(44.3%)から1.8ポイント上昇した。
- ・設備投資額については、前年より「増加する」が48.8%となった。また、「同程度」と合わせると82.8%となり、総じて積極的な姿勢がうかがえる。

7. 設備投資予定ありの比率(各年1月調査の結果)

今回調査

	平成22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年
農業全体	-	33.1	37.3	42.0	39.5	34.5	43.6	51.8	46.6	44.3	44.3	46.1
稲作(北海道)	-	33.5	45.3	48.8	39.7	26.1	44.1	48.6	45.2	41.0	43.2	42.3
稲作(都府県)	-	35.0	45.7	50.9	46.1	32.5	45.1	53.5	49.8	47.0	49.1	51.2
畑作	-	38.6	40.3	46.6	37.6	37.2	50.1	54.1	53.2	49.7	53.1	52.7
露地野菜	-	35.2	36.8	41.3	41.1	34.8	41.9	50.8	44.6	43.8	38.1	43.1
施設野菜	-	32.7	34.9	36.8	35.8	34.6	38.6	46.3	40.2	38.0	33.3	35.7
茶	-	30.7	31.1	35.9	32.2	30.3	28.2	45.7	40.5	40.7	31.2	35.1
果樹	-	29.7	30.3	39.9	33.6	31.7	38.2	45.5	33.5	35.2	34.2	42.4
施設花き	-	21.2	29.9	29.4	27.7	26.3	28.1	41.1	30.8	28.8	35.4	38.4
きのこ	-	27.7	25.5	28.7	43.0	36.6	44.9	47.3	43.2	51.9	36.8	50.7
酪農(北海道)	-	23.9	24.7	32.0	27.8	36.4	42.0	53.7	46.1	44.3	43.7	40.8
酪農(都府県)	-	36.2	34.0	34.3	35.9	42.8	38.3	58.0	49.4	48.4	42.2	45.1
肉用牛	-	28.4	30.8	37.8	36.5	41.1	49.9	56.8	46.2	45.1	48.5	42.0
養豚	-	36.4	38.4	36.2	49.3	55.9	54.4	62.1	58.0	45.5	50.2	54.0
採卵鶏	-	40.0	38.3	27.8	39.8	46.5	54.0	61.3	61.2	44.2	52.4	56.8
ブロイラー	-	45.5	39.1	43.4	38.8	47.8	55.8	59.7	51.8	55.1	58.7	49.4

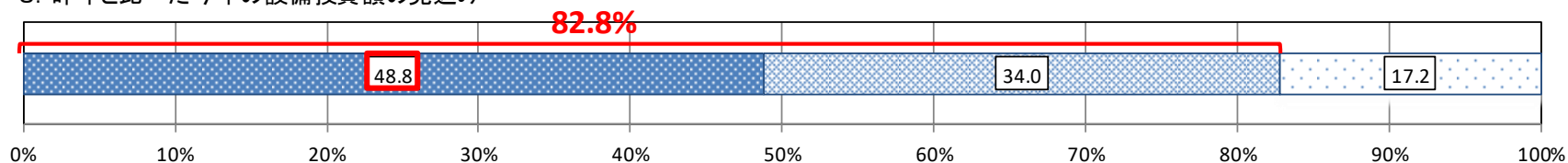
※設備投資予定ありの比率は調査実施当年中の設備投資を「予定している」の割合。

8. 昨年と比べた今年の設備投資額の見込み

■ 増加する

■ 同程度

□ 減少する



I. 農業の景況について(天気図)

業種	令和元年 実績	令和2年 実績	令和3年 見通し	業種	令和元年 実績	令和2年 実績	令和3年 見通し
農業全体	6.0	▲ 24.9	▲ 32.4	施設花き	▲ 20.2	▲ 40.2	▲ 49.4
稲作(北海道)	26.5	▲ 3.6	▲ 61.6	きのこ	▲ 23.2	3.0	▲ 13.4
稲作(都府県)	11.4	▲ 33.4	▲ 43.8	酪農(北海道)	30.3	▲ 19.3	▲ 19.3
畑作	31.6	▲ 32.3	▲ 34.1	酪農(都府県)	8.4	▲ 16.4	▲ 3.4
露地野菜	▲ 9.3	▲ 32.8	▲ 35.2	肉用牛	▲ 0.2	▲ 43.9	▲ 12.4
施設野菜	▲ 22.4	▲ 28.1	▲ 24.3	養豚	▲ 4.1	44.3	▲ 2.0
茶	▲ 53.1	▲ 78.0	▲ 47.4	採卵鶏	▲ 38.9	▲ 43.8	▲ 29.1
果樹	7.5	▲ 16.8	▲ 21.8	ブロイラー	14.7	6.4	▲ 8.9

調査様式
農業経営の業況は
1:良くなった 2:変わらない 3:悪くなった

今年(令和3年)の経営見通しは
1:良くなる 2:変わらない 3:悪くなる

(注1) DI(Diffusion Index = 動向指数)について
DIは、前年と比較して、「良くなった」の
構成比から「悪くなった」の構成比を
差し引いたもの。

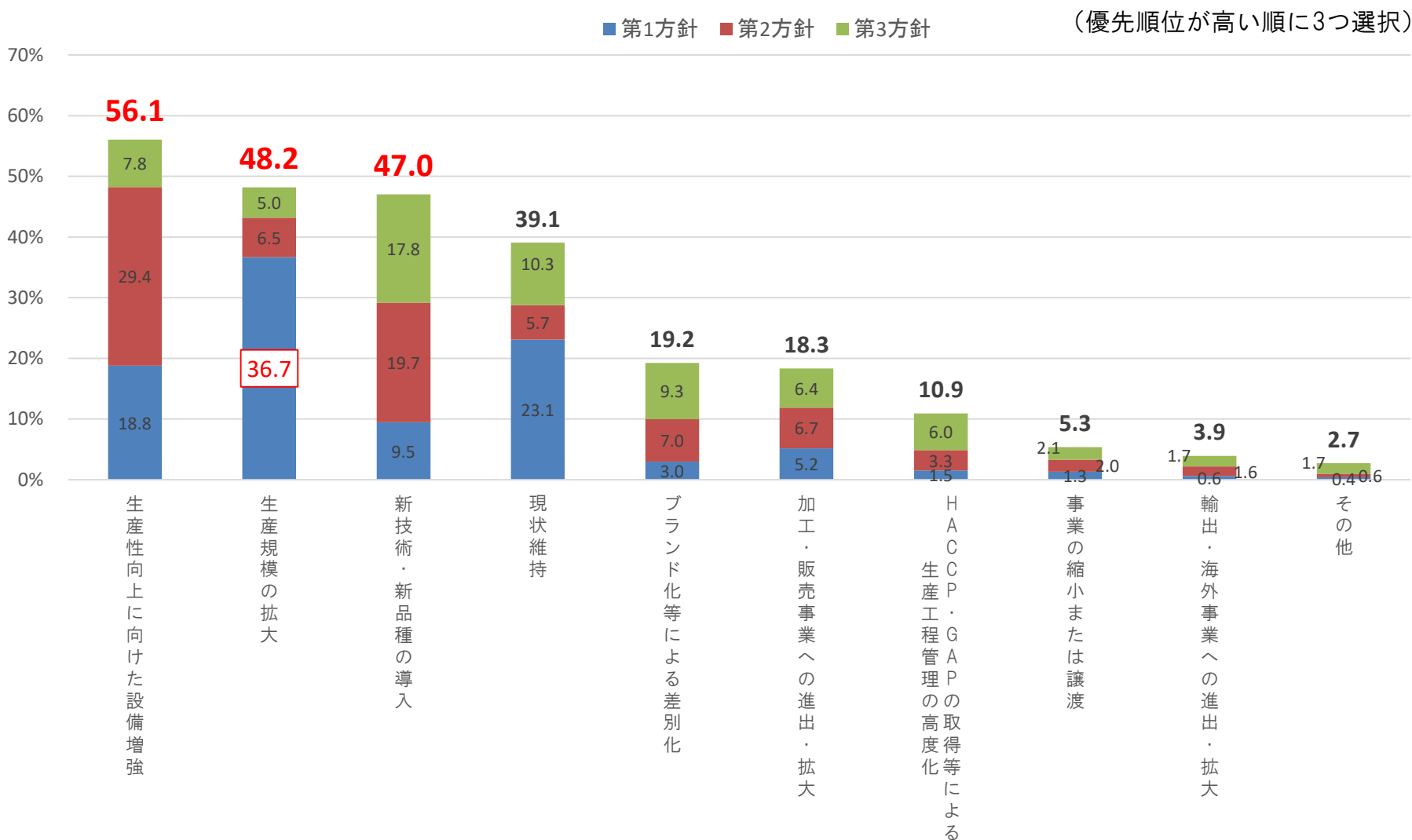
(注2) DI値に2.5以上の差異がある場合は
上向き又は下向き矢印。2.4以内の場合は
平行矢印。

(凡例)

≤ -50 < ≤ -20 < ≤ -5
 -5 < < 5 ≤ < 20 ≤

Ⅱ. 今後の経営方針について

- ・今後の経営方針については、「生産性向上に向けた設備増強」(56.1%)が最も高く、次いで「生産規模の拡大」(48.2%)、「新技術・新品種の導入」(47.0%)となった。
- ・最優先する経営方針(第1方針)として選択した回答をみると、「生産規模の拡大」(36.7%)が最も多くなった。

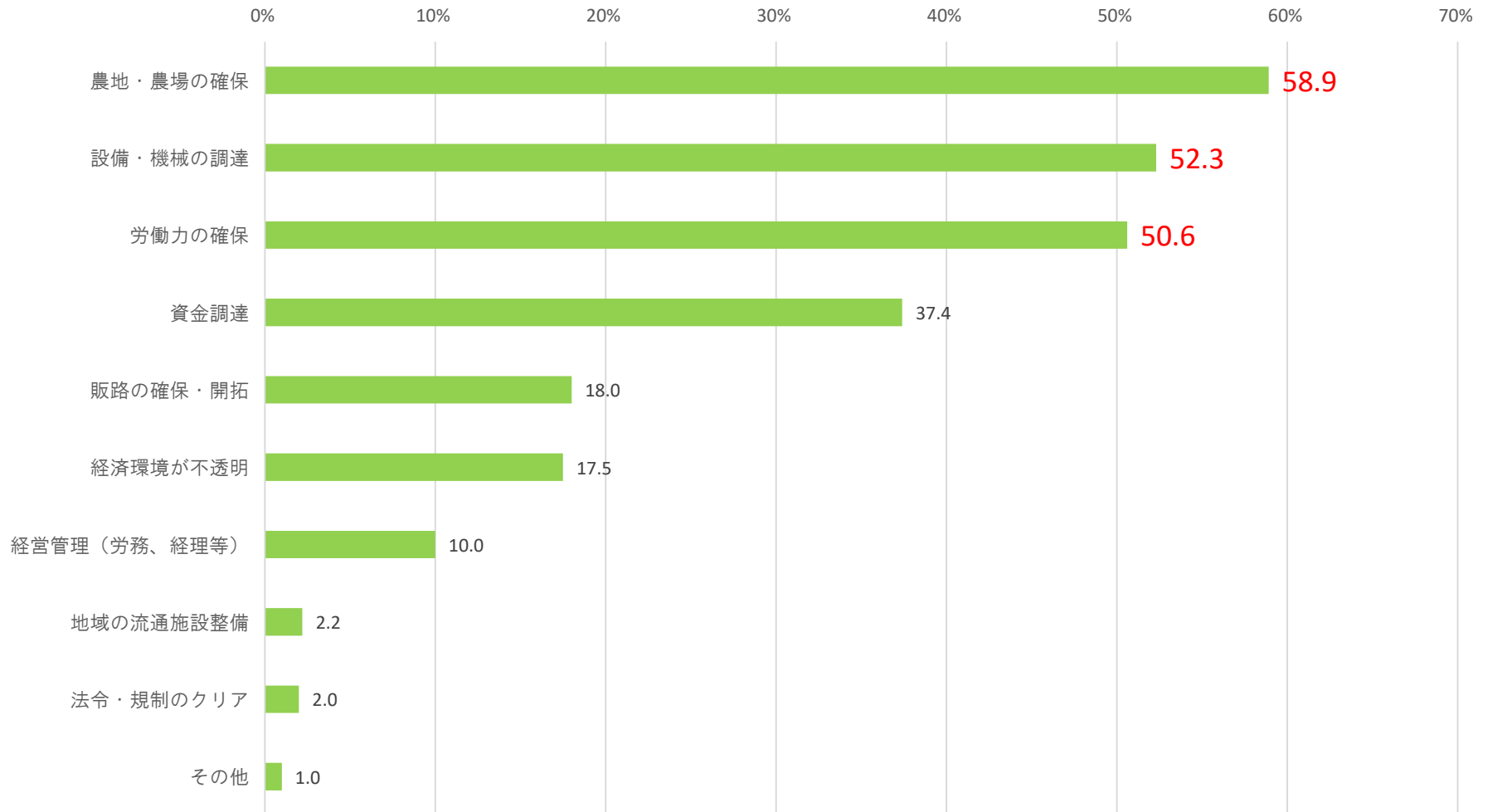


Ⅱ．今後の経営方針について

Ⅱ-2 規模拡大の阻害要因

・今後の経営方針について「生産規模の拡大」と回答した先に、その阻害要因を聞いたところ、「農地・農場の確保」(58.9%)とする割合が高く、次いで「設備・機械の調達」(52.3%)、「労働力の確保」(50.6%)の順となった。

(複数回答3つまで)

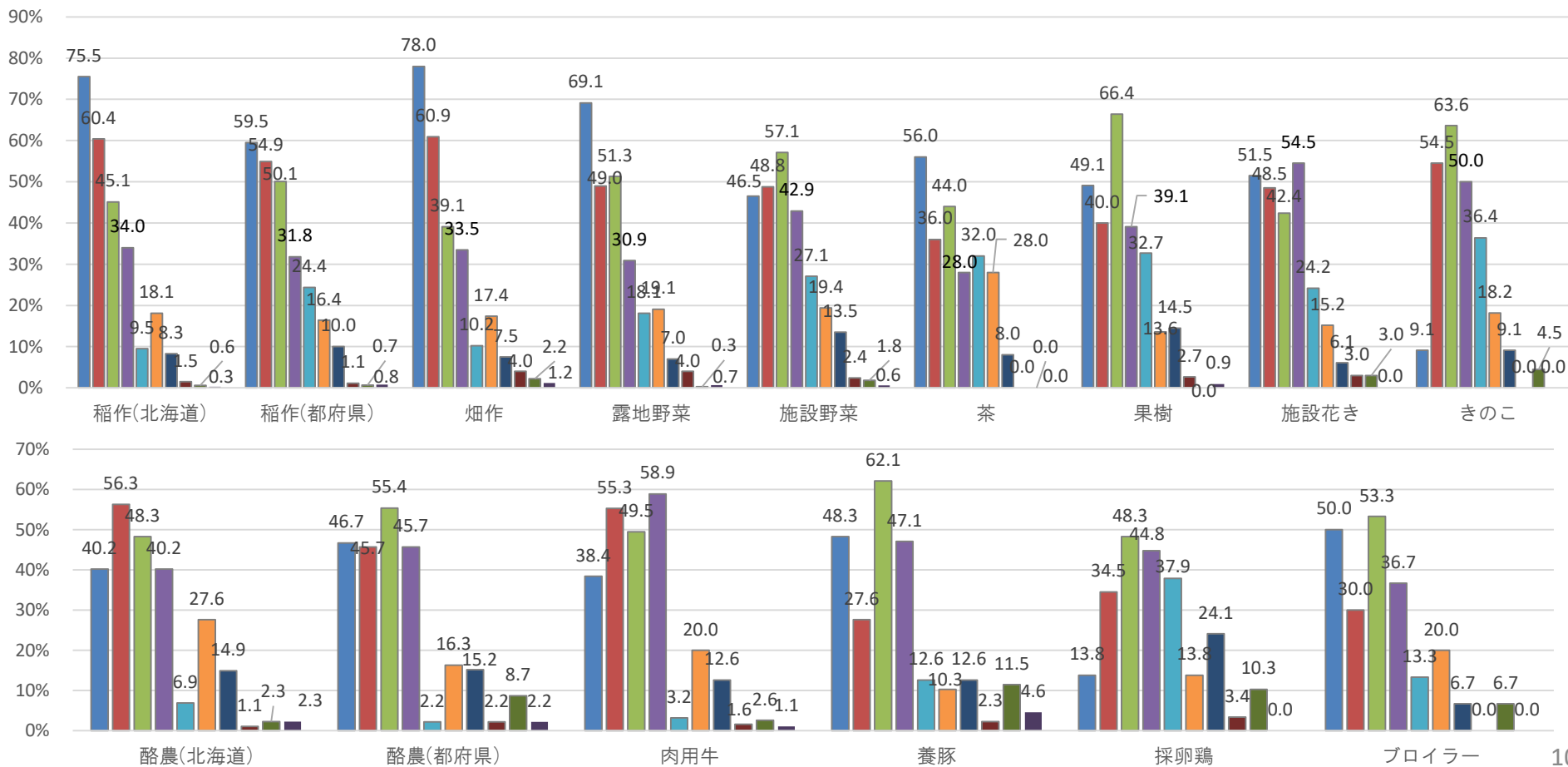


Ⅱ -2 規模拡大の阻害要因(業種別)

- ・規模拡大の阻害要因を業種別にみると、耕種では、稲作、畑作、露地野菜、茶で「農地・農場の確保」、果樹、きのこ、施設野菜で「労働力の確保」、施設花きで「資金調達」の回答割合が最も高くなった。
- ・畜産では、養豚、酪農(都府県)、採卵鶏、ブロイラーで「労働力の確保」、肉用牛で「資金調達」、酪農(北海道)で「設備・機械の調達」の回答割合が最も高くなった。

(複数回答3つまで)

■ 農地・農場の確保
 ■ 設備・機械の調達
 ■ 労働力の確保
 ■ 資金調達
 ■ 販路の確保・開拓
■ 経済環境が不透明
■ 経営管理(労務、経理等)
■ 地域の流通施設整備
■ 法令・規制のクリア
■ その他

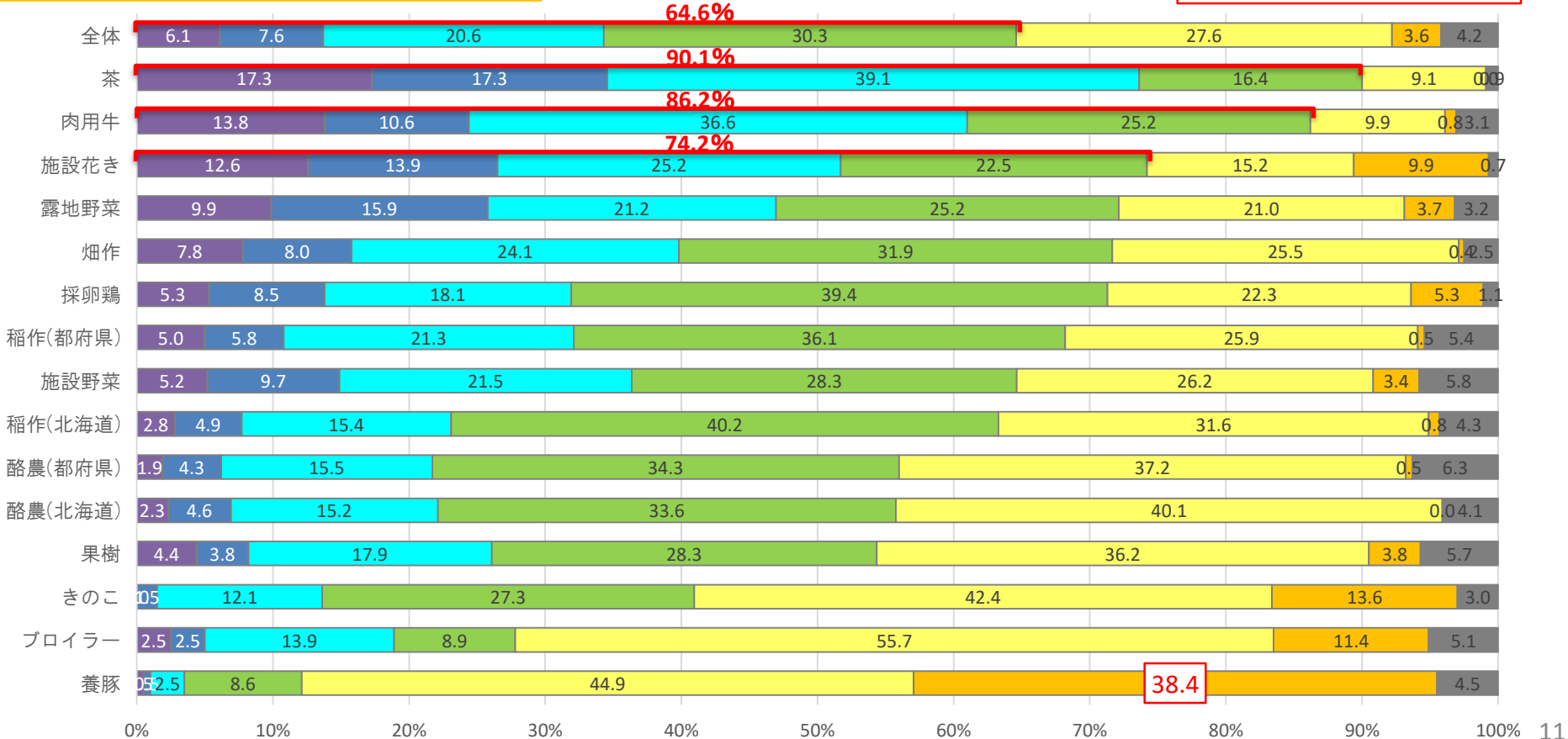
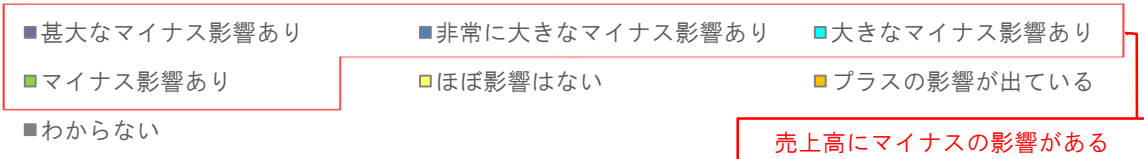


Ⅲ. 新型コロナウイルス感染症拡大による影響

Ⅲ-1. 売上高への影響

- ・新型コロナウイルス感染症拡大により、売上高にマイナスの影響があるとする回答は64.6%となった。
- ・その割合を業種別にみると、茶(90.1%)で最も高く、次いで肉用牛(86.2%)、施設花き(74.2%)となった。
- ・養豚は「プラスの影響が出ている」とする割合が38.4%と他業種に比べて高くなった。

※各選択肢について
 ○ 甚大なマイナス影響⇒売上高が例年の5割未満
 ○ 非常に大きなマイナス影響⇒売上高が例年の5～7割未満
 ○ 大きなマイナス影響⇒売上高が例年の7～9割未満
 ○ マイナス影響⇒売上高が例年の9～10割未満

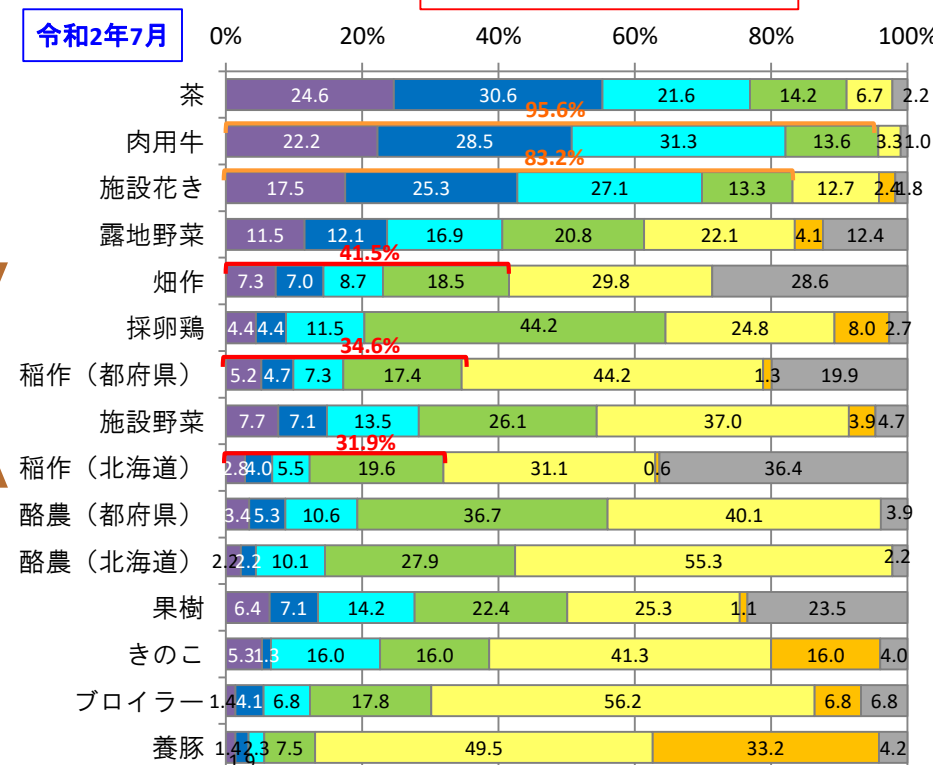
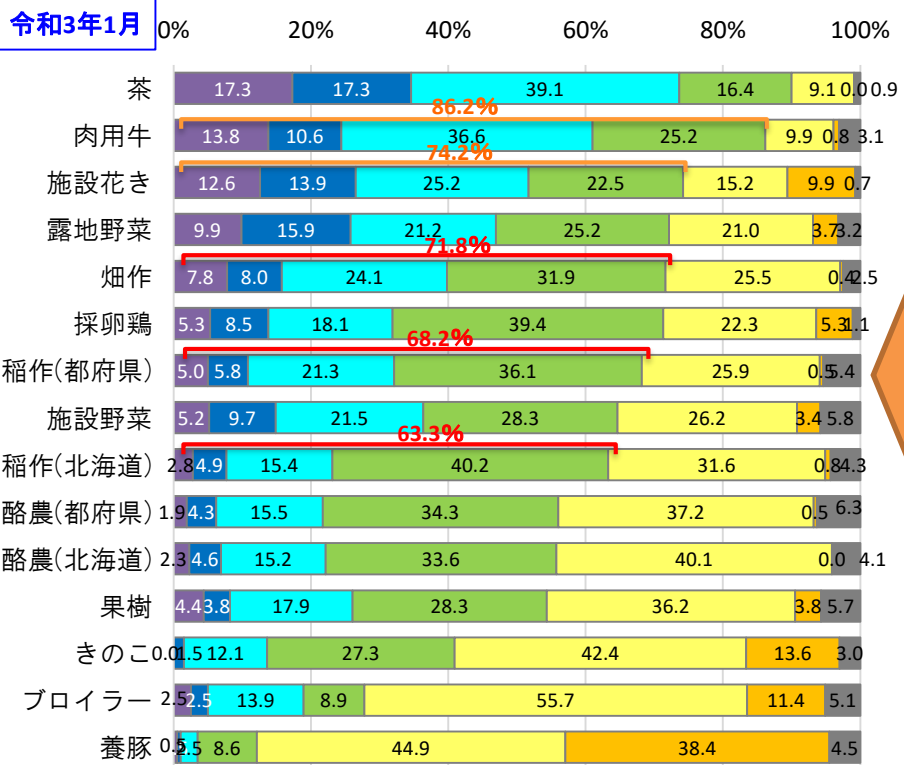


Ⅲ-1. 売上高への影響（令和2年7月調査との比較）

- ・今回調査と令和2年7月調査を比較すると、多くの業種で売上高にマイナスの影響があるとする割合が上昇し、「わからない」の割合が低下した。特に、稲作や畑作、果樹において顕著な動きが見られる。
- ・肉用牛、施設花きは、「ほぼ影響はない」が増加し、マイナスの影響があるとする割合が低下するなど、若干の改善の動きがみられたが、依然としてマイナスの影響があるとする割合が8割前後を占めている。

甚大なマイナス影響あり
 非常に大きなマイナス影響あり
 大きなマイナス影響あり
 マイナス影響あり
 ほぼ影響はない
 プラスの影響がでている
 わからない

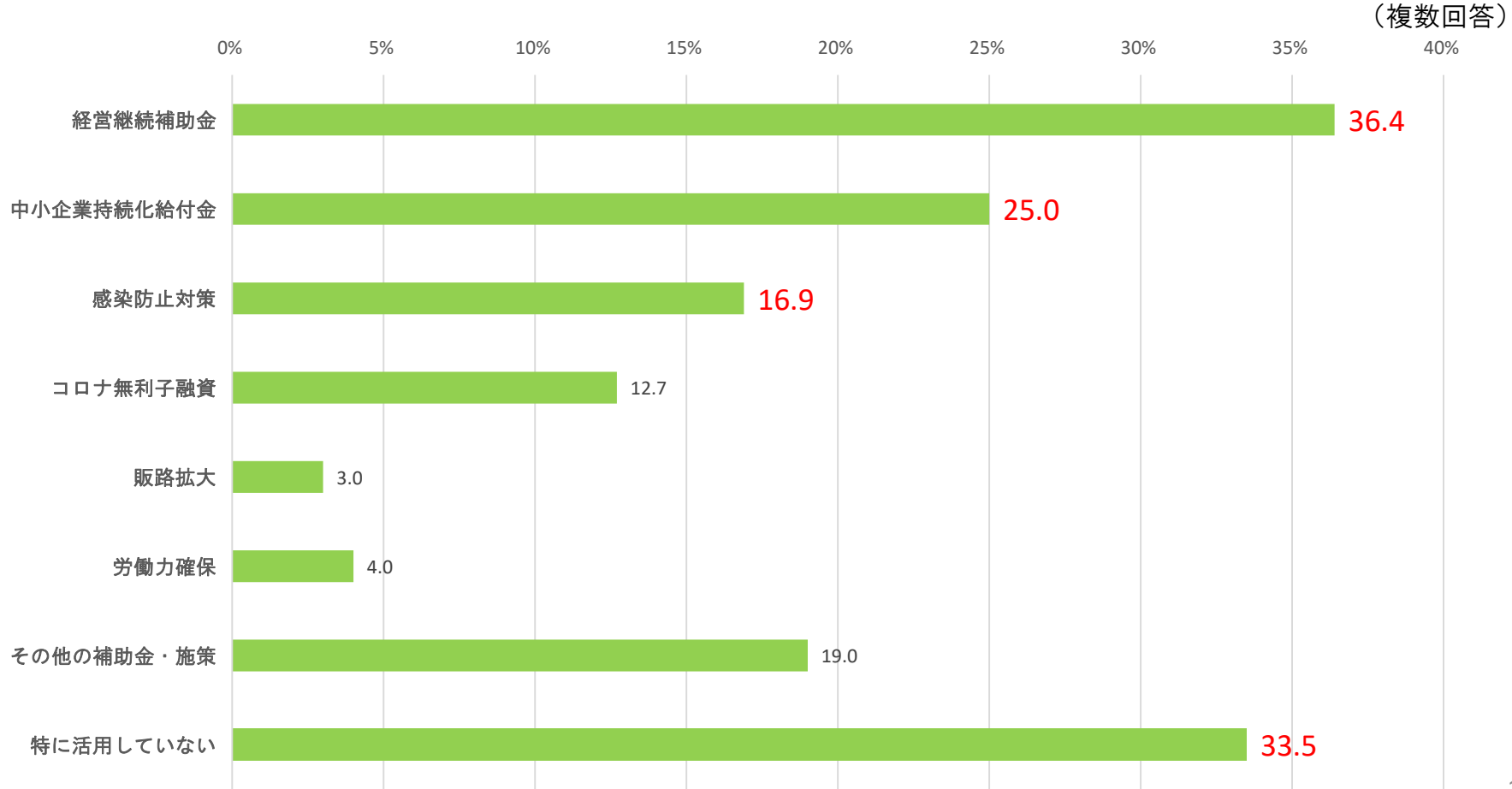
売上高にマイナスの影響がある



Ⅲ.新型コロナウイルス感染症拡大による影響

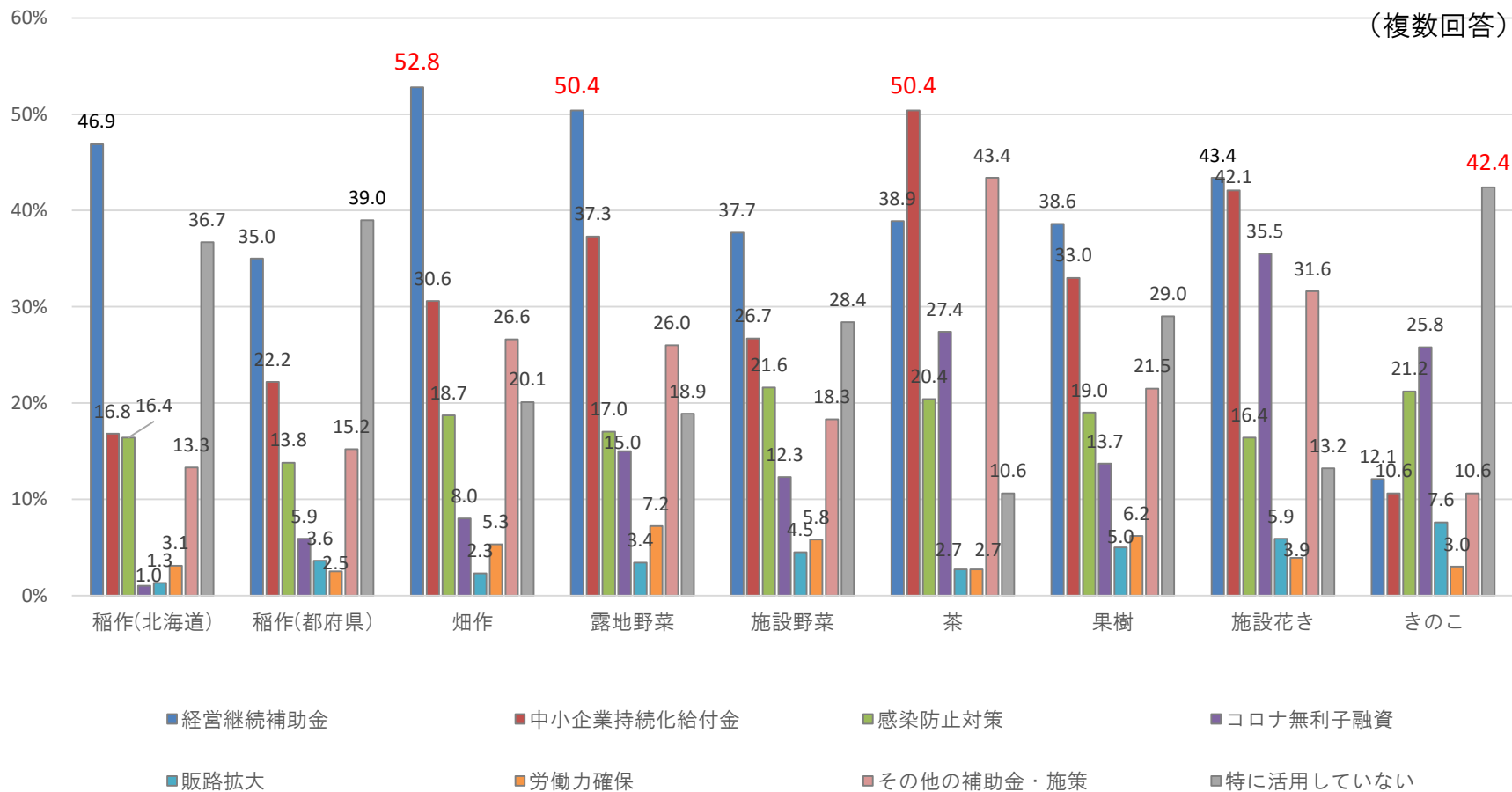
Ⅲ -2. 支援策の活用について

・新型コロナウイルス対策として活用した支援策について聞いたところ、「経営継続補助金」(36.4%)の利用が最も多く、次いで「中小企業持続化給付金」(25.0%)、「感染防止対策」(16.9%)となった。
・また、特に活用していない(33.5%)との割合も高く、約3分の1を占める結果となった。



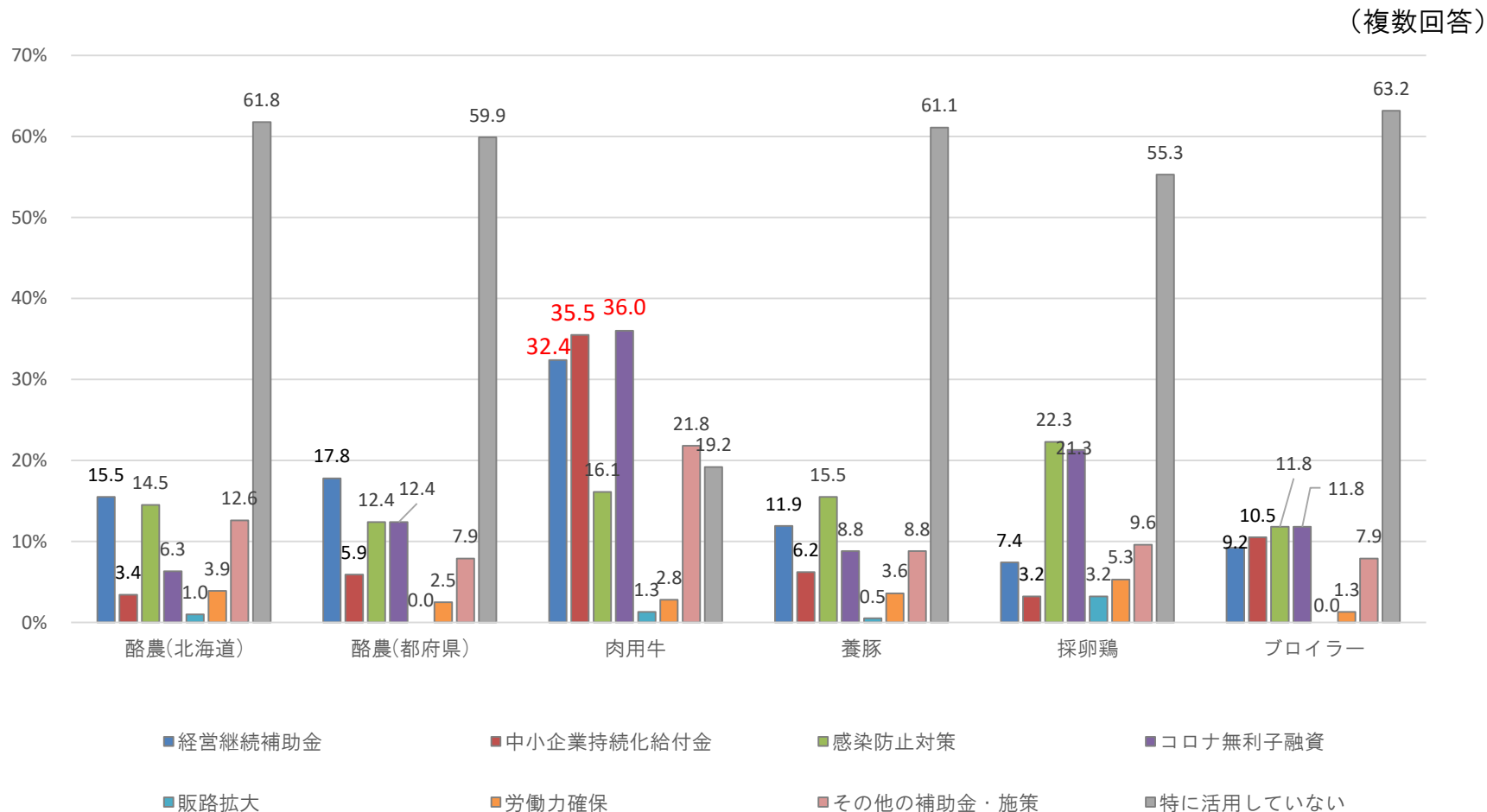
Ⅲ -2. 支援策の活用について(業種別/耕種)

- ・業種別(耕種)では、多くの業種で「経営継続補助金」の回答割合が最も高くなった。特に畑作(52.8%)と露地野菜(50.4%)では過半数となった。
- ・また、茶では「中小企業持続化給付金」(50.4%)、きのこでは「特に活用していない」(42.4%)の割合が最も高くなった。



Ⅲ -2. 支援策の活用について(業種別/畜産)

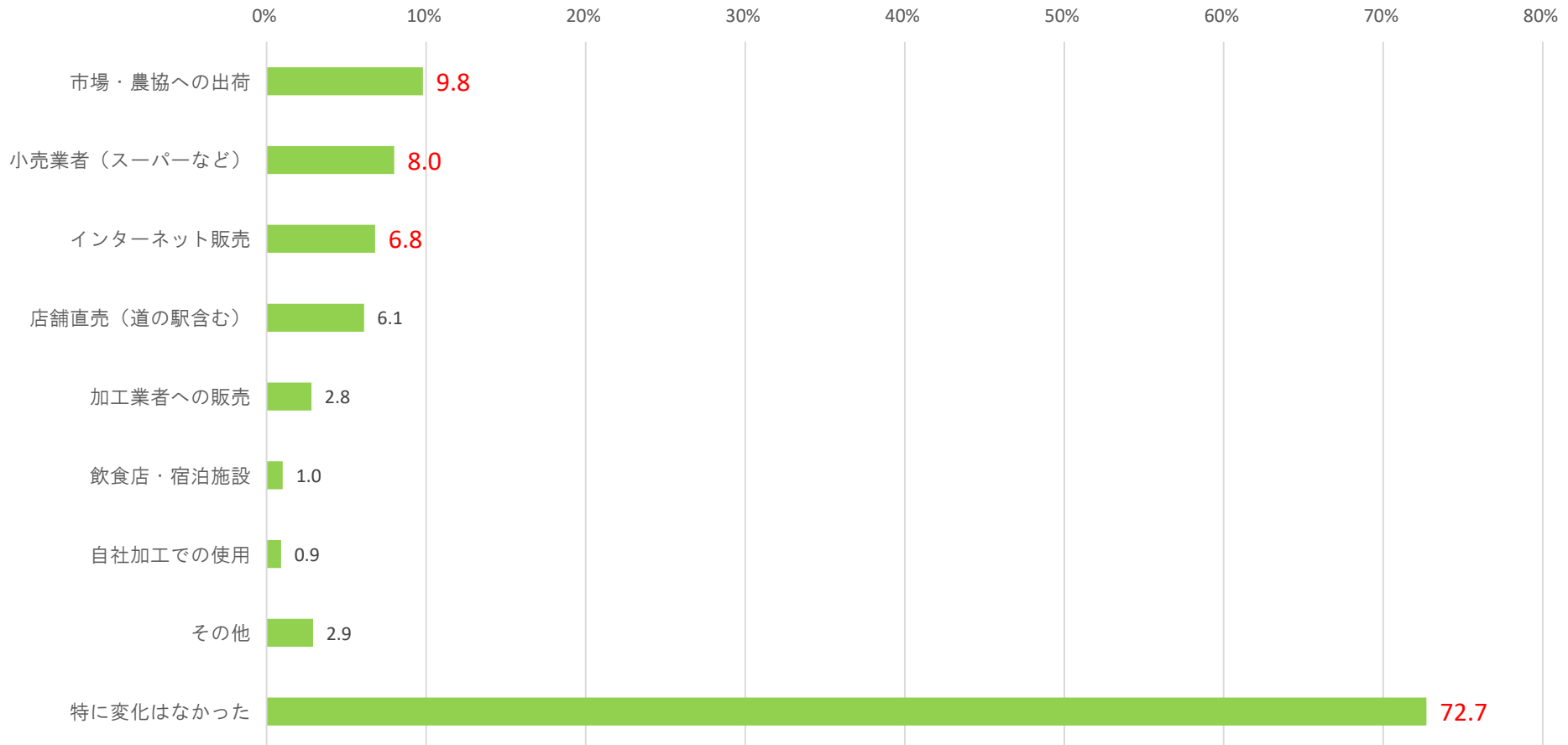
・業種別(畜産)では、肉用牛を除くすべての業種で「特に活用していない」の割合が最も高くなった。
 ・肉用牛では「コロナ無利子融資」(36.0%)、「中小企業持続化給付金」(35.5%)、「経営継続補助金」(32.4%)の順となった。



IV. コロナ禍により取引量が増えた販売先について

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、取引量が増えた販売先について聞いたところ、「特に変化はなかった」とする割合が72.7%と最も高くなった。
- ・また、増加した販売先としては「市場・農協への出荷」(9.8%)、次いで「小売業者(スーパーなど)」(8.0%)、「インターネット販売」(6.8%)となったが、いずれも低い割合となっている。

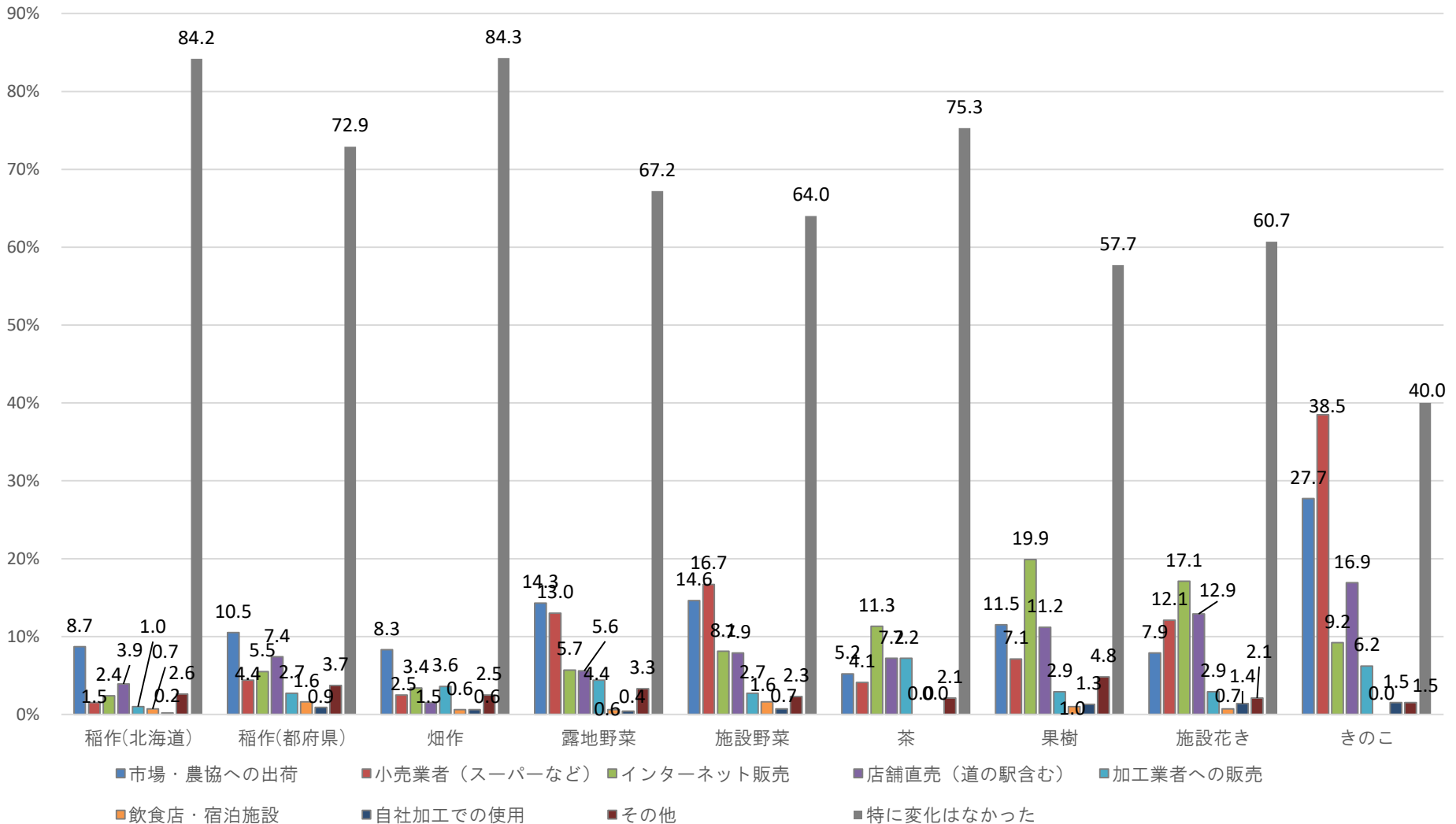
(複数回答)



IV. コロナ禍により取引量が増えた販売先について(業種別/耕種)

- ・業種別(耕種)に見ると、すべての業種で「特に変化はなかった」が最も高い割合となった。
- ・取引量が増加した販売先としては、果樹及び施設花き、茶で「インターネット販売」、きのこ、施設野菜で「小売業者(スーパーなど)」、露地野菜では「市場・農協への出荷」が最も高くなった。

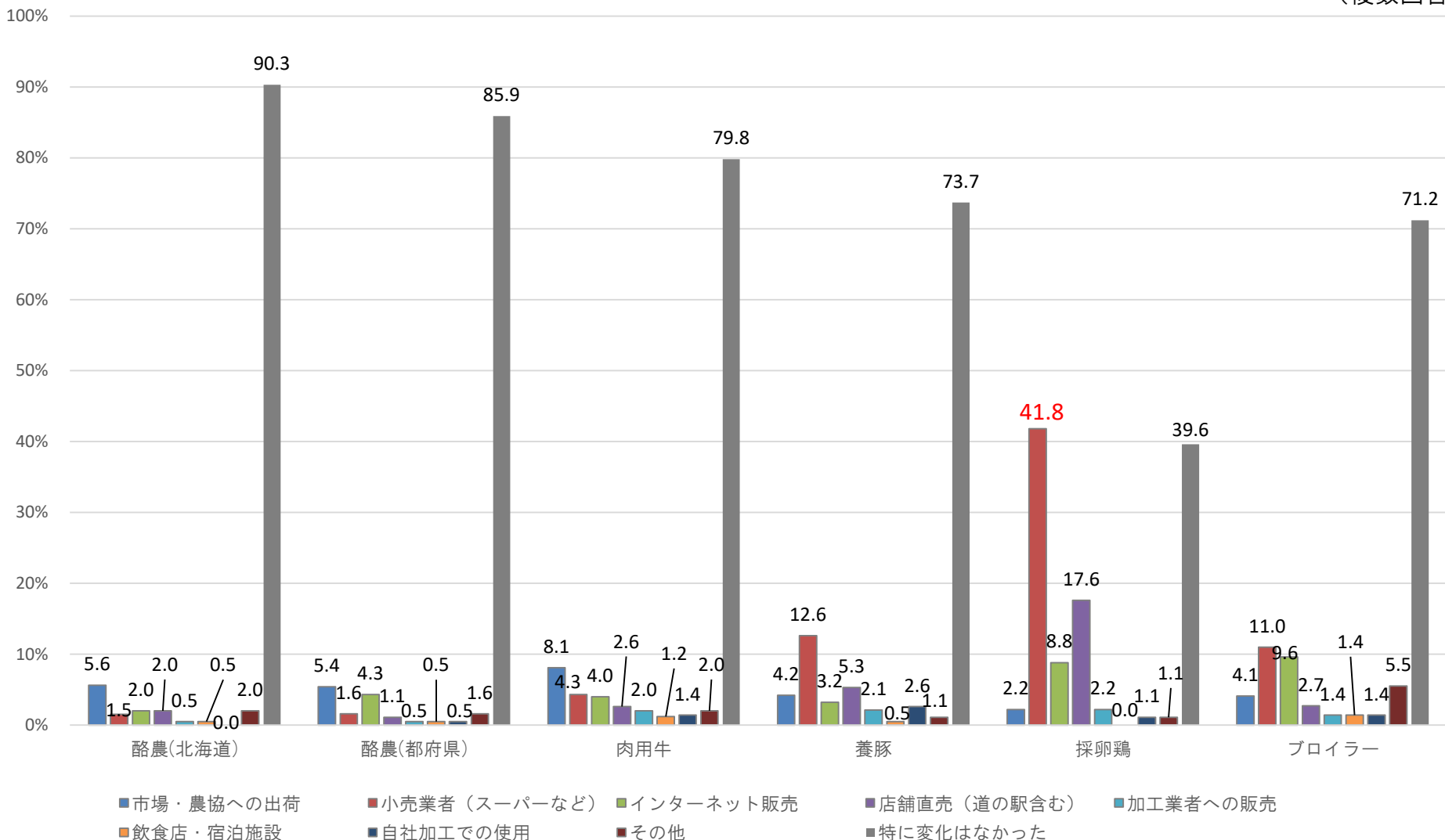
(複数回答)



IV. コロナ禍により取引量が増えた販売先について(業種別/畜産)

- ・業種別(畜産)に見ると、採卵鶏を除くすべての業種において「特に変化はなかった」の割合が最も高くなった。
- ・採卵鶏では「小売業者(スーパーなど)」(41.8%)が最も多くなった。

(複数回答)



IV. コロナ禍により取引量が増えた販売先について(インターネット販売への取組)

- ・コロナ禍でのインターネット販売の取組みについては、関心がないとの回答割合が最も高くなった。
- ・既にインターネット販売に取り組んでいる、またはこれから始めたいとする回答割合は、果樹(65.4%)で最も高く、次いで、施設花き(56.3%)、採卵鶏(53.3%)となった。
- ・「これから取組みを始めたい」との回答割合は、施設花き(28.1%)が最も高く、次いで稲作(都府県)(25.9%)、施設野菜(22.8%)の順となった。

